

United Nations Development Programme



**国連開発計画(UNDP)
途上国におけるビジネスセミナー**

**「ミレニアムビレッジプロジェクトとの
パートナーシップのご案内」**

2010年10月19日 UNDP 東京事務所

United Nations Development Programme

発表内容

1. 国連開発計画(UNDP) 組織紹介
2. ミレニアムビレッジプロジェクト(MVP)の概要
3. MVPの活動内容
4. 各国のプロジェクト(ケニア、ウガンダ、タンザニア、マラウイ)
5. 民間企業との連携事例
6. 日本企業へのご提案
7. GSBプログラムの紹介

United Nations Development Programme

1. 組織概要

国連開発計画(UNDP)は、国連システムにおける「総合開発機関」として、最大級の開発ネットワークを運営し、世界中で途上国の開発支援をしています。


- 1966年に設立(本部:アメリカ・NY)
- 海外拠点: 134カ国、166カ国で活動
- 年間予算: 約47億ドル('07)
- 基幹スタッフ: 約7000名
- 実施案件数: 年間約6000件
- 重点分野: ①貧困削減とMDGsの達成②民主的ガバナンス③危機予防と復興④持続可能な環境

United Nations Development Programme

2. ミレニアムビレッジプロジェクトの概要


背景: アフリカにおける「貧困の罠」、ミレニアム開発目標(MDGs)達成への進捗の遅れ。(全人口の40%が貧困層)

設立: 2000年代初頭-国連アナン事務総長による呼びかけに応じてジェフリー・サックス教授が国連とミレニアムプロジェクトを発足。コロンビア大学地球研究所、ミレニアムプロミス(NGO)、UNDPが協同でプロジェクトを実施。



アフリカ10カ国、78村で実施
保健、教育、インフラ等の包括的支援
サハラ以南の最貧困層に属する村がミレニアムビレッジとして選定された。
住民一人あたりの必要投資額 110ドル/年

↓
MDGs達成は可能か?
MDGs達成に向けたテストケースとしてのプロジェクト



United Nations Development Programme

2. ミレニアムビレッジプロジェクトの概要



Agro-ecological Zones

- Highland mixed (1)
- Highland pasture (2)
- Pastoral (3)
- Agropastoral (4)
- Cereals (crop mixed) (5)
- Rice (6)
- Lowlands (7)
- Karibu (8)
- Highland (9)
- No Forest (10)
- Open (11)
- Forest (12)
- Large ruminant and small holder (13)
- Small holder (14)

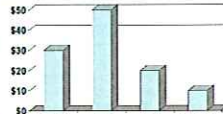
Annex from Dor et al. 2005. Farming Systems and Poverty. FAO

United Nations Development Programme

2. ミレニアムビレッジプロジェクトの概要

<基本方針>

- 包括的支援(保健・教育・農業・インフラ・ジェンダー・環境・小規模ビジネス)
- コミュニティの自主性・リーダーシップの促進
- コミュニティの能力育成
- 既存のプロジェクトの補強
- 地元コミュニティにおける解決策の促進
- マルチセクターのパートナーシップ
- 成功事例の普及・拡大





2005年にケニアとエチオピアで試験的に開始
2006年から10年間の計画で本格的実施
日本政府は「人間の安全の保障基金」を通じて、プロジェクト開始当初より支援を行っている。

United Nations Development Programme

3. MVPの活動内容




- (1)保健**
蚊帳、ビタミンAの配布。予防接種キャンペーンなどの啓蒙活動。コミュニティヘルスワーカーの配置。携帯電話を利用したモバイル診療の実施など
- (2)教育**
給食や校庭菜園などを通じた就学率向上支援。校舎建築。教員の能力向上。識字教室など成人学習の実施など
- (3)農業**
農業増産、有機栽培促進のための土壌改善。生産作物の多様化(高付加価値作物への転作)。畜産支援。灌漑設備整備など

United Nations Development Programme

3. MVPの活動内容


- (4)インフラとエネルギー**
道路、橋梁、排水施設の建設、上水設備や電線の敷設など。携帯電話のネットワーク、ITインフラ整備など。
- (5)環境**
コミュニティでの植林や土壌管理など。
- (6)ジェンダー平等**
女性のビジネス協同組合の組成、女児進学支援、ジェンダー平等の啓蒙・トレーニングの実施など
- (7)ビジネス開発**
小規模ビジネス起業支援、マイクロファイナンスプログラムの促進など

United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:ケニア (SAURI)


- プロジェクト最初で最大のミレニアム目標(2005~)
- 人口:75000人 村数:11
- 特徴:地域の人口密度高い(1キロ平方に600人)→農地不足
雨季年2回→農業のポテンシャル高い
しかし土壌劣化、肥料不足、市場へのアクセス不足により生産量は低迷
住民の80%が1日1ドル以下で生活する貧困層
伝染病の蔓延(12歳以下の子供の3/4がマラリアに感染)
ケニア全体のHIV感染率7%
河川は多い地形。しかし処理した安全な水へのアクセスはほとんどなし。



United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:ケニア (SAURI)

- 現在までの主な成果
トモロコシの生産量 1.9トン/ヘクタール → 5トン/ヘクタール
学校給食 18% → ほぼ100%
マラリア罹患率(全年齢) 50% → 8%
5歳以下の蚊帳使用率 10% → 62%



United Nations Development Programme


4. 各国のプロジェクト:ケニア (SAURI)

女児に教育を！
—学校での生理用ナプキンの配布活動

サウリでは女性は結婚すると地元を離れてしまうため、親が女児の教育に投資するインセンティブが低い。また家事労働に時間を取られて勉強ができない上、生理中は学校へ行かない女児が多い。この状況に対応するため、プロジェクトでは地元の生産者に再利用可能な生理ナプキンの製造を指導し、小学校に配布した。また小学校にジェンダークラブを作り、避妊やHIVなどの啓蒙活動を行っている。

関連分野でのパートナー:

- CARE: 母子保健、クリニックのスタッフトレーニング
- UNAIDS: HIV対策啓蒙
- WFP: 学校給食プログラム支援
- P&G: 生理用ナプキンプロジェクト支援
- GE: 医療機器供与
- Kentainer: トイレの設置
- 住友化学: 蚊帳の供給



United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:ウガンダ (RUHILA)

- プロジェクト開始:2006年6月~
- 人口:50000人 村数:8
- 特徴:標高が高く、山がちな地形。
雨季は年2回。森林伐採、浸食
人口移動などにより、土壌は極度に荒れた状態。
住民の90%が農民で、主にバナナを生産。
住民の60%が1日1ドル以下で暮らす貧困層。
最も近い市場まで15キロ
最も近い都市(バラ)まで45キロ
道路状態悪い。
電話線は引かれていないため携帯電話を使用。




United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:ウガンダ (RUHILA)

- 現在までの主な成果
 - トウモロコシの生産量 1.8トン/ヘクタール → 3.9トン/ヘクタール
 - 学校給食 5% → 74%
 - 安全な出産(助産婦など専門家による) 9% → 42%
 - 住居の衛生的トイレ 4% → 70%



United Nations Development Programme


4. 各国のプロジェクト:ウガンダ (RUHILA)

**バナナでもうける！
一農家の所得向上のための能力育成**

地域の主要産品であるバナナ販売の非効率と市場アクセスの不足により、以前は卸売価格は25キロ1.2ドル、1農家あたりの収入は8ドル/月だった。プロジェクトは地元NGOとの協力により、バナナ農家組合を組織、マーケティングや交渉のトレーニングを行い、バナナの価格収入を6倍に増加させた。プロジェクト非実施地域と比べると、バナナ1房の価格は1ドルの差が出た。

関連分野でのパートナー:


- Ihingiro地方政府: 政策支援
- Technoserve(NGO): バナナのサプライチェーン構築支援
- ウガンダ国家農産生産者協会: 販売網支援
- Makerere 大学: 農産リサーチの実施
- Mosaio company (米企業): 肥料の供与



United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:マラウイ (MWANDAMA)


- プロジェクト開始: 2006年6月
- 人口:35000人 村数:7
- 特徴:地域の人口密度高い(1キロ平方に600人)→農地不足
年間を通じて水不足。
年間を通じて食料不足。住民の74%が1日1ドル未満で生活する貧困層。5歳以下幼児の半分以上が慢性的栄養失調。
電気は通じていない。
医療施設なし。一番近い病院まで20キロ。
HIV感染率12%(予想)



United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:マラウイ(MWANDAMA)

- 現在までの主な成果
 - トウモロコシの生産量 0.8トン/ヘクタール → 4.5トン/ヘクタール
 - 5歳以下の蚊帳使用率 14% → 60%
 - 家庭における安全な水へのアクセス 45% → 97%
 - 携帯電話使用世帯 3% → 36%



United Nations Development Programme


4. 各国のプロジェクト:マラウイ (MWANDAMA)

**トウモロコシ増産で生活の劇的変化が・・・
一農家の生産向上支援**

プロジェクト開始前の村では、主要食料であるトウモロコシの生産高は非常に低く、慢性的な食料不足に悩まされていた。プロジェクトにより肥料と改良種子が配布されたことにより、生産量は4倍に増加し、国家平均の2倍に達した。農家は余剰生産高を学校給食プログラムに寄付して就学率の向上に貢献、また在庫保管して最高値の時に販売することにより、収入を劇的に向上させることに成功した。

関連分野でのパートナー:


- マラウイ森林省: 農産普及員の育成支援、改良種子の配布
- Mosaio Company: 肥料の供給
- Opportunity International Bank: 農家へのクレジット供与
- 国際Maize/Wheat改良センター/南部アフリカ土壌連盟: 農産生産拡大への技術支援



United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト:タンザニア (MBOLA)


- プロジェクト開始: 2006年6月
- 人口:34000人 村数:6
- 特徴:タンザニアで最も貧しい地域の一つ。
草原地帯で雨季は年一回。
最も近い都市Taboraへは36キロ。
住民のほとんどが農民で、主な作物はトウモロコシとタバコ
管理能力不足により、土壌が劣化し生産能力が低い。
道路などの基本インフラ欠如 → 市場アクセスが悪い



United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト: タンザニア (MBOLA)

- 現在までの主な成果
 - トウモロコシの生産量 0.97トン/ヘクタール → 5.8トン/ヘクタール
 - 小学校就学率 60% → 96%
 - 年間12000人がマラリアの治療を受診
 - 6村全てに医療クリニックを設置。無料の医療サービス提供。
 - 15の養蜂グループが組織。トレーニングを受ける。




United Nations Development Programme

4. 各国のプロジェクト: タンザニア (MBOLA)

地域で初めてのクレジット組合結成

プロジェクトでは地方政府と協力して、236名のメンバーから成るMbolaミレニアム貯蓄・クレジット組合 (SACCO)を結成した。この組合の主な業務は、現在クラスターで試行中の様々な小規模ビジネス(縫製製造、キャッサバペーパー・カリー、チキン販売など)へのマイクロクレジット(小規模金融)や貯蓄の実施・管理等。



日本企業がソーラーランタンの寄贈を検討中。実現した場合はこのクレジット組合を通じて配布し、クレジットプログラムを利用した販売を通じた所得向上が可能か、ビジネス機会について調査が実施される予定。




United Nations Development Programme

5. 民間企業との連携事例

(1) エリクソン

2007年よりプロジェクトに参加。

- テレコミュニケーションの普及
 - (ガーナ、ナイジェリア、タンザニア、ウガンダのビレッジで携帯通信網整備完了)
- 遠隔医療の支援 (Child Count Program, nutrition programなど)
 - コミュニティヘルスワーカー、クリニックなどに2000台以上の携帯電話を供与。SMSを使った様々なシステムの開発。
- 今後の教育や農業などへの応用を検討中





United Nations Development Programme

5. 民間企業との連携事例

(2) グラクソ・スミスクライン

- Save the Children等のNGOと協力して世界中で実施中のPHASE PROJECTをマラウィとセネガルのビレッジで展開。
- トイレの建設、啓蒙用教材の作成と配布、衛生用品(石鹸、手押し車やシャベル、ごみばこなど)の配布
- 学校における係員の教育
- 今後他のビレッジにも拡大する予定。

United Nations Development Programme

5. 民間企業との連携事例

(3) JM EAGLES

- 世界最大級の米のパイプ製造企業
- セネガルのビレッジで開始以来、ガーナ、ウガンダ、ケニア、マラウイ、マリ、ルワンダ、タンザニアに拡大。

Table 2. Summary of Planned Water Pipe Delivery (February 2010)

Site	Population to be Served	Total Length of Pipes (km)
Bonzeaso (Ghana)	16,638	57
Tiby (Malawi)	33,921	60
Kiyanga (Rwanda)	18,500	32
Puhira (Uganda)	21,922	66
Mbola (Tanzania)	8,640	21
Mwandama (Malawi)	2,666	12
Sauri (Kenya)	3,300	20
Potou (Senegal)	13,500	67
Totals	121,702	335



United Nations Development Programme

5. 民間企業との連携事例

(4) LENOVO


- 全ビレッジにICTを整備する計画を支援
- 約15万ドルを供与 (LenovoのPC 148台を購入)
- ICTキオスク設置 (15か所。各キオスクにPCを設置し、オペレーターをトレーニング。起業支援として)
- 学校PC室の設置 (9校に設置。1校につき、学校サイズに応じてPC 5~10台供与。School to School Program 実施)




5. 民間企業との連携事例

(5)住友化学


- 殺虫剤が練り込まれた蚊帳「オリセツ・ネット」を開発。生産拡大中(年間生産能力6000万張り。タンザニアの現地工場への技術移転により7000名の雇用を創出)
- 2006年に33万張りを寄付。2010年に40万張りを再度寄付。
- マラリア撲滅に向けた蚊帳の有効性につきプロジェクトと協同でデータ収集・分析、世界的問題解決を図る。



5. 民間企業との連携事例

(5)三井物産

- モザンビークのミレニアムビレッジで、太陽光発電とポンプを利用して河川水を農業灌漑設備を提供。(ソーラーパネル240枚、ポンプ16台、貯水タンクなど予算総額は200万ドル)
- フェーズ1(約1年間)・設備施工
フェーズ2(約1年間)・自立発展に向けた農業経営・開発のための能力向上支援。
- 10倍以上の収益性向上が見込まれている。(\$ 500/ヘクタール→ \$ 6500/ヘクタール)



6. 日本企業へのご提案

自社のビジネスリソースを利用したプロジェクトへの支援

↓

単なる寄付で終わるものではなく、成長が期待されるアフリカ市場の人々を、生産者・消費者・労働者として取り込む長期的ビジネス戦略として捉えることができる。

<企業が得られるメリット>

- 技術・ビジネスへのフィードバック (プロジェクトによるデータ収集、分析、製品や技術のトライアル 等)
- 現地の市場情報の把握
- PR・ブランド力向上への貢献
- 現地政府・関係者とのネットワーク構築
- 社員への訴求

7. GSBプログラムの紹介

UNDPの民間企業パートナーシップの目標とは・・・

企業の持続可能なビジネスを通じて、商業利益と社会(開発)利益双方を実現していく。

商業利益	開発利益
<ul style="list-style-type: none"> 売上・利益 市場開拓 安定供給 品質向上 購買費節約 ブランド認知度向上 	<ul style="list-style-type: none"> 貧困削減へのインパクト <ul style="list-style-type: none"> 雇用創出 所得向上 地域経済への波及効果 ミレニアム開発目標(MDGs)へのインパクト <ul style="list-style-type: none"> 水、エネルギーへのアクセスの向上 環境改善 母子保健の向上 その他基礎的サービスの供給 (i.e. 情報通信)

7. GSBプログラムの紹介

	企業	UNDP
目標	ビジネスを通じた経済・社会利益の最大化	
強み	<ul style="list-style-type: none"> 商品、技術 ビジネス知識 経済データ 資金 人材 雇用や所得向上への直接的効果利益ベースのコミットメント(中長期) 	<ul style="list-style-type: none"> 公正・中立なパートナーとしての高い信頼 政府・地元企業、市民社会との強い関係 豊富なローカルの知識と経験 政策・規制レベルへの影響 グローバル・ネットワーク&ナレッジ・マネジメント 社会データ(BOP市場)高い知名度
課題	<ul style="list-style-type: none"> 政府、地元利害関係者との交渉 地元の社会ニーズの理解 知名度、信頼性 	<ul style="list-style-type: none"> 自前の資金・技術に限界 プロジェクト・ベースでのコミットメント(短期)

7. GSBプログラムの紹介

GSBの特徴

- 目的:MDGsに寄与するビジネス支援(i.e.雇用・所得創出、情報通信、医療、環境)。
- UNDP活動例: F/S調査共同実施および一部費用負担、現地政府・関係者との仲介、貧困層の能力開発トレーニング、政策協議の促進など
- メリット:UNDPの中立的な立場、知見、知名度、現地ネットワークの活用。
- 参加企業: 2007年までの4年間で75社以上が参加(事業規模は1万~400万ドル)
- 期間: 1~2年程度。

